



## 研究会大会・色彩教材研究会発表報告

11月26日（土）開催の秋の研究会大会において、下記の色彩教材研究会員6名のオンラインによる研究内容が聴講者約60人あまりを対象に、順調に発表されました。

◆吉澤陽介（木更津工業高等専門学校）  
「大型組み立てブロック“RenBlock”の色彩展開の検討」

◆忍足優菜（木更津工業高等専門学校）  
「高齢者における明度の違いによる色彩弁別能力の評価」

◆榎芳栄（TBS テレビ）  
「デジタル教材を用いたカラーコーディネーション演習による示唆」

◆田森恭子（明成）  
「貴石の色」

◆平山和香子（Atelier WANOKA）  
「源氏物語から読み解く平安の色」

◆吉村耕治（関西外国語大学短期大学部）  
「岡本太郎が思考した美意識の特徴 一言語文化論の視点から」

◆発表内容は、色彩教材研究会の守備範囲を広さを示していました。特に榎芳栄さんの発表内容は、今後の色彩教材の進むべき道を示すものとして感銘いたしました。研究会としてこの路線を追求してください。（永田泰弘）

## 研究会大会で色風景の研究を発表

11月26日に行われた秋の研究会大会において、一宮・常滑・有松の美しい色風景に関する3件の発表がありました。国際芸術祭「あいち2022」のまちなか会場である3地域の色風景を撮影し「日本の美しい色風景」サイトに投稿する活動や、データ分析結果の報告です。

最初に、疋田千枝さん（学会員）が、のこぎり屋根の建造物や七夕飾りなど、歴史や産業、伝統文化に育まれた、心に残る色風景を数多く紹介し、撮影時の様子も交えながら報告をしました。

続いて、長屋匠馬さん（名城大学）は、投稿者が申告した「主要な色彩」や画像の色彩情報に着目し、色彩的な特徴を分析した結果を報告しました。

最後に、山下遼真さん（名城大学）は、各地の美しさの感性構造について分析し、「今後はAIの技術を用いて、分析の精度を上げたい」と抱負を語りました。

色風景プロジェクトが「美しさ」の分析に役立ち、日本の未来に繋がることを心から願っています。（祖父江由美子）

◆学会のホームページ上から「日本の美しい色風景」の応募ができます。投稿をお勧めします。（永田泰弘）

## 源氏物語の色-41「夕霧」

光源氏五十歳の年の秋、光源氏の長男、夕霧は、亡き友、柏木の妻、落葉の宮への思いをより深くつのらせていた。

落葉の宮の母、一条御息所が亡くなり、その葬儀ののちの九月、夕霧は落葉の宮の住む小野を訪ね、妻戸の前で小少将を呼び、話かける。一条御息所の姪にあたる小少将の服装は「衣（きぬ）の色いと濃くて椽（つるばみ）の衣一襲（かさね）、小袷着たり」とある。喪服一襲の上に小袷を着け、「濃くて」とあるので黒に近い色であろう。喪服の色は喪の程度に応じ、黒、鈍色、薄鈍色（薄墨色）と色の濃さを着分ける。濃い色程、喪は重く、弔意の深さも表した。

椽（くぬぎ）は櫟（くぬぎ）の古名。櫟などのブナ科の実である団栗（どんぐり）の煮汁を染料として染めた色。

服喪の時や、出家の者が着用する衣の濃いねずみ色を表す色名として「鈍色」が、源氏物語の中で多くみられるが、「椽」という記述は、この夕霧の一例のみ。

この場面でも几帳の色は鈍色と書かれている。細やかな色名の使い分けに作者の意図と平安の色の世界観を感じる。

（平山和香子）